

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎年行っている内部研修にて、理念を学ぶ機会を持ち理念を共有し実践に繋げるよう努めている。また、各職員理念に基づいた年間目標を立て実践に繋げている。	年度初めに理念の学習を行っている。理念を基にユニット目標を毎月作成してサービスの具現化に繋げている。また職員は理念を基に各自の年間目標を作成し、2回/年の管理者面談にて振り返りを行うなど理念への意識づけを図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の為、積極的な交流は出来ていないが、回覧板の利用や地域の保育園児が敬老の日のプレゼントを持って来てくれたり、散歩の際など、挨拶を交わし、交流をしている。	事業所にAEDを設置し、住民には回覧にて周知してもらっている。消防訓練では地域の参加者に車いすの避難誘導をお願いしている。また、散歩の折には住民と挨拶をかわし、近隣の住民からは定期的にお花の苗を植えてもらうなどの交流が図られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議では、認知症の理解や支援方法など伝えているが、地域貢献になるような具体的活動は出来ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	管理者が細かく報告し、意見が上がった際は、丁寧に検討しサービス向上に努めている。また、今年度から入居者様2名の方に委員をお願いし会議に参加してもらっている。会議に参加しない職員の為、会議録は全職員に回覧し情報の共有を図っている。	住民代表の方々、地域包括支援センター職員、他事業所職員、家族、今年度からは利用者が参加し定期開催している。事業所からは利用者の生活の様子、ワクチン接種状況、行事等の報告がなされており、住民代表の方々より、報告への質問や防災に関して意見が出されるなど「住民代表委員」の司会進行の下、双方向での話し合いが行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事務職員が運営や直面している課題について市に相談している。今年度は、新型コロナウイルスに関する相談を行い連携を取っている。	市の担当者とは書類提出、必要時の相談・連絡を行っている。地域包括支援センター職員は運営推進委員でもあるため、会議にて事業所のサービスの取り組みを報告している。また、各種会議、研修案内などの連絡をもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	防犯以外の施錠はしておらず、出たい時に出来るようになっている。また、入居者様に窮屈さを感じさせないよう遠視見守りなどの対応をしている。しかし、具体的な内容と言われたら、正しく言えない職員もいる。	理念向上委員(管理者、主任、各ユニット職員)会が中心になり身体拘束防止に取り組んでいる。新人職員研修では身体拘束の具体的な行為等、基本学習を行っている。身体拘束・虐待関連の研修を1回/年グループワーク形式にて行い学習の機会としている。また、日々のケアにおいて身体拘束防止を意識した振り返りの機会を持つようになっている。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	エントランスや休憩室の目に届く所にポスターが掲示しており、意識する切欠になっている。また、アンケートを活用し日々の不適切ケアの防止に努めている。	理念向上委員会にて、毎年、不適切ケアアンケートを実施している。アンケート内容は委員会が話し合い決定している。委員会は集計したアンケート内容から議題をユニットに提示しており、話し合いを行うことで意識付けを図り、虐待防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	近年制度を学ぶ機会はなく、制度を理解している職員は少ないが、制度を利用されている利用者様は増えてきている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者、ご家族が理解、納得のいく説明を管理者が丁寧に行っている。また、介護保険の改定、自費利用料金の改定の際は、事前に文章にて説明している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者、ご家族からの意見、要望はシートを活用し職員間で共有し、反映するよう努めている。ホームには、不特定多数用の意見箱はあるが意見が入ってくることはない。言いづらい意見を匿名で言える環境を整えた方がいいのではと感じる事もある。外部へ表せる機会は外部評価にて行っている。	家族からの要望意見は、6ヶ月ごとの担当者会議の折や電話連絡の際に聞くよう努めている。また、利用者との日常の会話や、日常の様子を見ながら職員のほうから声掛けを行い利用者の思いを把握できるよう努めている。出された要望は「意見要望シート」やケア記録に記載し情報共有を図り、ケアに反映するよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回の面談にて意見する場はあるが、運営に関しては意見は言いづらい。職員の意見が反映される場として、社員総会があってもいいのではという意見もあった。	管理者は2回/年の面談の折や毎月開催されるユニット会議、主任会議において職員からの意見・要望を聞く機会としている。また、職員の様子や表情を見て随時声掛けを行い話を聞くよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	今年度は、給料改定にて賃金改善やコロナ対策の特別金の支給などやりがいを持って働けるよう努めてくれていると感じている。一方ではもう少し職員の事を知ってほしい、職場環境の改善を求める職員もいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍の為、外部研修への参加は出来ていないが、最近ではズームでの研修を提供してくれている。また、各職員平等に研修の機会を作ってくれている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍の為実施出来ていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期には、ご本人がどうしたいかを知る為、共に過ごす時間を多くとり、急がず関係性を作り要望や不安を口にしやすい雰囲気作りを心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者が入居前丁寧に聞き取りを行い、その情報を入居前に全職員に周知している。また、二カ月に一度の近況報告の手紙に、「お気づきの点などあればいつでものお話下さい」等とお伝えしている。しかし、コロナ禍で入居されたご家族とは顔を合わす機会が少なくこれから信頼関係づくりをしていく必要がある。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者が入居前丁寧に聞き取りを行い、その時に必要な支援を提供するよう努めている。しかし、他のサービス利用についてはわからない。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	最近では介護度が低い入居者が増えた事もあり、日常生活の中で出来る事をお願いしたり、主体的に出来るように環境を整えたりし、共に作業をする場面が増えている。入居者様は職員の事を「先生」と呼ぶ方もおられ、共に暮らす同士ではなく施設の職員として「認識していると思います。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の負担も考慮しながら、ご家族の力が必要な時は協力してもらっているが、コロナ禍の為、電話や手紙など直接会わない協力しか行われてないのが現状である。	電話、オンライン面会、絵手紙、はがき等を使いながら本人と家族の絆を大切に家族との交流に心掛けている。また、受診の付き添い、日用物品の補充依頼、新たな利用者情報の確認等、必要時は連絡・相談を行い共に支える関係性を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の為にできていない。時々ドライブにてなじみの場所に行く程度である。	コロナ禍の中、人数制限をしながら家族・親族とパーティション・ガラス越しでの面会を実施するなど、馴染み人との関係性の継続に努めてきた。また、地域の名所や自宅近くまで職員とドライブをするなど、馴染みの場所への関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方同士、食席やレクリエーションの配置、ドライブ席などを検討したり、入居者様同士が自然に関われるよう、さりげなく話題を提供したりしている。その際、その時間わりたいと思われているのか見極め、お節介にならないよう気を付けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所の際は「何かあればいつでもご連絡下さい」とお声がけはしているが、実際相談などはない。 相談はないも、季節になると柿やタケノコを届けて下さるご家族はいらっしゃり、ホームに足を運んで下さる事を嬉しく思います。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	モニタリングや日常会話時、暮らし方の希望や本人の思いなどお聞きし、本人本位に支援の検討に努めているが、お一人おひとりの意向をしっかりと把握出来ているとは言えない。	日々の会話やモニタリングにて暮らしの希望を得ている。得た情報から検討必要な内容は職員間で話し合いを行い、本人の意向を把握するよう努めている。情報はカンファレンス記録やケース記録に記載し、モニタリングは回覧するなど全職員が利用の思いの把握ができる体制がつけられている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報シートや記録、コミュニケーションの中からこれまでの暮らしの把握に努めているが、月日が経つと忘れてしまっている事もある。	情報シートや生活記録、日々の関わりの中での利用者との会話からこれまでの暮らしの情報の把握を行っている。また、家族との面談、関わりの中で情報を得ている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子観察と情報収集にて把握に努めている。また、バイタル測定やケア時、特に傍による際、顔色、表情、話し方等変化がないか確認するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	コロナ禍にて家族と関わる時間も少なく、しっかりと意向の確認は出来ていないと感じる事もあるが、ご本人が安心して生活してもらう為に、日々のミニカンファレンスや会議にてチームで話し合い、ケアプランに反映している。	担当者会議には毎回、家族も参加しており家族や利用者の思いを大切にしている。職員間では日常的にミニカンファレンスを開催し、担当者と主任のケアマネを中心に、チームで利用者の支援について話し合いが行われ、ケアプランに反映されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のエピソードや状況は、ケース記録に細かく記載している。また、気になった事はカンファレンスや会議で話し合い、ケアプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	希望や要望があれば、出来る限り対応しているが、これからの時代、ニーズが多様化した際、今以上に柔軟な支援が求められると思う為、職員一人ひとりのスキルアップをしていく必要があると感じる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の為地域資源の活用は殆ど出来ていない。また、地域資源とは何か分からない職員も多い。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族、ご本人の希望があれば、入居前のかかりつけ医を継続しながらホームの嘱託医と連携を図っている。また、必要時は他科受診をするなど適切な医療を受けれるよう支援している。	毎週水曜日に嘱託医が往診に来ており、非常勤の看護師が週に3日、半日出勤となっているため、利用者の状態についてなど相談できる環境にある。入居前よりかかりつけ医がいる利用者は家族が受診対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師からは、介護ならではの気づきや本人の状態など情報をきちんと伝達してくれているとの評価である。介護士は、利用者様に体調の変化などあれば随時看護師に報告、相談し、緊急時などには電話で指示を仰ぐことも多い。開設当時から勤務している看護師の為、何でも相談しやすい。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院し環境が変わる事で、認知症の進行も考えられる為、治療が終わった段階で、出来るだけ早期に退院できるよう病院関係者と連携を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族、ご本人(聞ける方)の希望を確認し、時期がきたら主治医より病状説明を行い、看取りの契約を交わしている。延命はせず、自然な形で最期を希望されるご家族は多い。チームでは終末期を安心して過ごしてもらえよう、状態に合わせ都度話し合いを行い丁寧な支援を心掛けている。また、最後は一人で逝かせないをモットーに支援をしている。	看取り期には、家族や利用者の意向を確認し、話し合いをした上で嘱託医より病状説明が行われている。最期は一人で逝かせないをモットーに職員はチームで利用者の支援について、その都度、話し合いが行われ、時間がある時はなるべく一緒にいる時間を増やすなど、丁寧な支援を心掛け看取りケアに取り組んでいる。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年2回AEDの使用方法を学ぶ機会を設けているが、勤務の関係上、全職員が参加しておらず、実際に出来るか不安な職員も多い。応急手当のマニュアルや急変のリスクが高い方には、具体的対処法を共有し不安の軽減に努めている。	年2回消防の避難訓練の際に、AEDの使用方法を学んでいる。施設のマニュアルとして応急手当のマニュアルは用意されており、看取り期など急変のリスクが高い利用者には必要に応じ、個別で急変時の対応について具体的な対処方法を職員間で共有し実践に繋げている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回火災訓練は行っているが、勤務の関係上、全職員参加出来ない事もあり、全職員が身につけていない。最近是想定外の災害も起こっている為、不安である。コロナ前は地域の方にも訓練に参加してもらっていたが、現在は行えていない。	年2回火災訓練は行っているものの、水害や地震を想定した訓練はまだ実施できていない状況である。コロナ前は、年2回のうち1回は消防の人が来て地域住民と一緒に火災訓練に参加していた。	水害時の避難場所である高台に、職員や利用者で行ってみようかと検討しており、状況を見て実施されることが期待される。また、地震を想定した訓練も計画を立て実施していくことを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	心掛けてはいるが、完璧ではない。また、自分は心掛けているつもりでも、相手(入居者様)がどう感じているか分からない部分もある。	トイレの扉が開いていた時、声のトーンや音量についても気付いた時に、その場で職員同士指摘し合える関係が築けている。不適切ケアについてのアンケートを実施することにより、普段からケアの振り返りが行われ、利用者のことを一番に考えることが出来る様子が窺える。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の中では、「コーヒーか紅茶どちらに…」「散歩かドライブどちらに…」「何時ごろお風呂に入りますか？」位である。本当の想いを聞くには信頼関係がないと聞けないと思う為、日々の関係性を大切に、想いを表現しやすい場にしていきたいと思っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	100%希望にそった支援は出来ていないが、食事時間や入浴時間など出来る範囲で、その方のペースや考えを大切にしている。実際希望に添えない事もあるが、聞く耳は持つようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お洒落な方には、定期的にマニキュアを塗ったり、行事の時はお化粧をしたりと、小さなお洒落を楽しんでもらっている。日常的には、髪の毛を整えたり、服装の乱れや汚れに気をつけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事はヨシケイ利用している為、お一人おひとりの好みにそうのは難しいが、その方に合った量や形態にて提供している。また、お楽しみランチ会や行事食など出来る範囲で食の楽しみを提供している。なお、出来る方には、無理のない程度に片付けなど協力してもらっている。	コロナ前は、週に1回買い物を行い、食事を全部、施設で調理していたが、現在は食材業者を利用している。ユニットごとで野菜を追加したり、利用者の好みや形態に合わせるなどの工夫をしながら提供している。年4回ランチ会が行われており、外食ができない状況でも利用者に食事を楽しんでもらえるよう取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嚥下状態に応じた食事形態や食事、水分量に応じて、エンシュアやOS-1などの補食や食事回数時間など検討し支援に繋げている。また、量に関してはチェック表を用いて把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	今までの生活習慣に合わせ、無理強いせず個々に合った口腔ケアを実施している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立に向けた支援は行っていないも、ご本人の排泄パターンに合わせ、パット交換やポータブルトイレの設置など行っている。	利用者一人ひとりに合った排泄パターン・特性を把握し、利用者が排泄しやすい環境を整えている。また、排泄チェック表を使用し、排便コントロールも対応できている。実際に利用者の状況に合わせて支援しているため、失禁が減った利用者も居られる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘にて周辺症状が悪化するなど、便秘が及ぼす影響は理解しているも、基本的に下剤にてコントロールしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望がある方に関しては、希望の曜日や時間帯に入れるよう支援している。入浴を拒まれる方に関しては、どうしたら気持ちよく入浴して頂けるかご家族にも協力して頂きながら試行錯誤中である。	入浴日の時間、曜日など希望がある利用者には、希望に合わせて入浴できるよう支援している。職員の都合で入浴日の時間や曜日を決めてしまわず、利用者の気持ちに寄り添い、入浴したいと思ってもらえるような関わりを行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の空調や寝具の交換など気持ちよく休んで頂けるよう支援している。また、朝が弱い方、夜遅くまで起きていたい方など、出来るだけご本人のペースにて休んで頂く為にも、干渉すぎないよう気を付けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全ての薬について、詳細に理解はしてはいないが、必要時にはお薬カードやネットを利用し理解に努めている。また、新しく内服する薬や中止薬がある時は、特に状態に変化がないか注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩やドライブ、レクリエーション、縫物など、その方の好きな事や得意な事を出来る範囲で提供して気分転換にはなっていると思うが、張り合いがもてるまでには至っていないと感じている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為、外出支援が限られてしまうが、散歩やドライブは行っている。最近では、スポーツ公園やいくとびあ、旦那野神社へ行き、気分転換を図ってもらった。コロナが終息したら、質の高い外出支援がしたいと考えている。	コロナ以前は、外食や買い物によく出かけていたが、今はドライブに行ったり近所を散歩したりすることが多くなっている。外出する機会は減ったものの、地域との関わりが強く、地域住民がお花を植えに施設へ来たり、散歩のときには挨拶を交わしたりと、地域との関係が築けている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭トラブルの観点から、金銭の持ち込みは基本的に遠慮してもらっている。金銭を持つ大切さは理解しており、個別に対応している。但しご本人は持ちたくともご家族の意向で持てない方もいる。また、金銭を持つことで生活の質が落ちるケースも実際あった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があれば基本的に自由に使用してもらっているが、電話をかけた事を忘れ、何度も希望があるケースなどはご家族負担も考え、代替支援で対応する事もある。また、ご家族への近況報告の手紙を書く際、言付けはないかお聞きしたり、字が書ける方には年賀状に一筆書いてもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広い空間と木のぬくもり、ウッドデッキからの眺めなど建物の環境は良い。フロアーには子供っぽくならないよう気をつけながら、季節の写真や、入居者様との作品を飾る等工夫している。また、テレビの音や食器洗いの音等の生活音や整理整頓を心掛け居心地の良い環境づくりを行っている。	施設全体的に掃除が行き届いており、フロアは明るく、眺めも良く、広い空間を利用し利用者が過ごしやすい環境が整えられている。利用者がわかりやすいように大きく行事の日程を掲示したり、行事の写真を貼ったりと、見ただけで楽しくなるようなフロアである。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食席は気の合う方が同席になるよう配慮している。また、フロアーには自由に使えるソファを配置し、限られた家具の中で、出来るだけ過ごしやすい環境を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた物を持参して頂くようお願いするも、新しく新調される方も多い。居心地がよく過ごせるよう都度検討している。また、認知機能や身体的機能の状態に合わせて、居室の環境も検討している。	利用者が個々の生活空間を大切にしており、居室は利用者が持参した家具などが配置されている。利用者の状態に合わせてベッドの配置に配慮するなど、利用者が安心して安全に暮らせるよう工夫されており、居心地の良い環境づくりが行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	分かりやすいよう居室のネームやトイレの張り紙を貼っている。また、フロアーは、すっきりと保ち、安全に歩行や車椅子の自操が出来るよう工夫している。		